

農業体験サークル

筆者が講師を務める大手前大学に、農業体験サークルPOMATOがあります。学生を地域に参加させ、体験の過程で学習させたいと目論む先生が仕掛けられたようです。場所は六甲山の北側の船坂地区。有馬に近い高原です。大学からは30分ほどバスに乗れば到着します。広さは100坪ほど、バス停の前の三角形の畑です。専業農家の方が耕しきれないので貸して下さった畑です。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

「中嶋先生は家庭菜園をやっておられましたね。未体験者ばかりなので、教えてください」とおだてられ、筆者もサークルに参加しています（というか、学生に相手をしてもらっています）。畑にはジャガイモ、トマト、キュウリ、サラダゴボウ、先生向け？の枝豆などが植えられ、ジャガイモはすでに収穫、トマトも収穫中。十分な収穫があります。

トマトの支柱づくりのとき、学生が竹の上下を考えないまま支柱を立ててしまいました。畑の貸主（学生をかわいがり、何かと面倒をみてくださいます）が、「竹が逆なので気持ちが悪い。生えているときと同じように、下は下に、上は上に。上下を逆にするそこは立ち入り禁止の意味が出てくる」と教えて下さいました。学生たちはいやがりも



▲収穫の喜びもいっぱい

せず、ひっくり返す作業をしていました。

農業サークルの活動日は、先生と学生は同じ立場で作業を進めます。先生にとっては子ども時代の砂場遊びの延長？ 学生の指示を受けて作業に夢中です。学生と並んで作業をしていると、そこには一種の連帯感が生まれます。同じ作業を通じて多くの世代の交流が生まれてきます。何回も行っていると、地域の人が声を掛けてくれたりもします。学生の交流範囲が一気に拡大することがわかります。そこには人工的ではない自然な学習の場ができあがります。共通目的をめざしていっしょに作業をする、それを通じて人が学習する。企業内で行うイベントや学校のクラブ活動がもつ人材育成効果と同じものを感じます。

熱心に世話をする学生、よい指導者（畑の貸主）、十分に休養した畑土。その三拍子が揃う学生の畑は、やせた土地を我流で耕す私の家庭菜園より多くの収穫を実現し、筆者は少し悔しさを感じることでしょう。

◇POMATO（大手前大学農業サークル）のブログ → <http://agricco.jp/pomato/>

（MBO実践支援センター代表）

